

住民の意見を反映した構想、計画の策定

三鷹市3計画（都市マス、水と緑の基本計画、景観計画）

三鷹市の基本計画や各分野別計画が一齐の見直し時期を迎えることを踏まえ、主として第4次基本計画及びまちづくり3計画（都市計画マスタープラン、緑の基本計画、景観計画）の改定・策定に反映するため、市民参加による「ワークショップ」を企画運営しました。

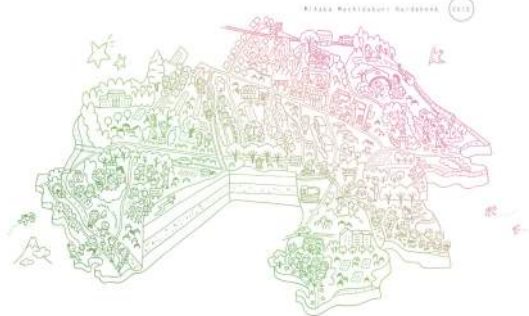
ワークショップは、特性の異なる7つのコミュニティ住区に分かれ、計28回実施し、27のまちづくり提案をとりまとめました（延べ542名参加）。

まちづくり3計画の改定・策定にあたっては、市民からの提案内容を、「基本計画に反映するもの」「まちづくりに関する3計画に反映するもの」「その他の個別計画に反映するもの」「保守管理などの日常業務ですぐに取組むもの」等に分類・整理しました。

また、市民活動で取り組むアイデアについては、別途市民向けの「まちづくりガイドブック」にも取りまとめ、行政計画と市民活動の両輪で三鷹のまちづくりを進めていく体系としました。



三鷹まちづくりガイドブック



左/ワークショップの様子・右/三鷹まちづくりガイドブック

川崎市総合計画の市民検討ワークショップ

川崎市は平成24年度に、新たな総合計画の策定に向けて様々な市民参加の場を実施しました。その第一段階として、客観的で幅広い市民意見を聴取するために、無作為抽出・有償型（プランニングセル方式）によって参加した市民同士が意見交換できるワークショップが開催され、その企画・運営に関わりました。

ワークショップは、市内の7区で各1回ずつ開催し、ワールドカフェやグルーワークの手法を段階的に組み合わせた手法で、市の資源や課題、解決アイデアを出し合いました。募集は無作為抽出で各区600人に通知し10～80代までの30人を選考し延べ180人の参加がありました。

また、市民参加の機会が減っていた川崎市職員を市民参加の場に積極的に関わられるように、研修を行い、ワークショップには職員も補佐として参加しました。

ワークショップでの意見をより多くの市民に伝え、その反応を確認するために、各区の区民祭でパネル展示を行い、シール投票を通して延べ8,289名の参加を得ました。その結果は、総合計画フォーラムに展示するなど、市民参加の複合的な機会づくりにつなげるとともに、その成果を総合計画の検討資料としてとりまとめました。



左／プランニングセル方式による市民検討の様子・右／川崎市長の挨拶

さっぽろ市民 1000 人ワークショップ

札幌市第4次長期総合計画にもとづく魅力ある都心づくりに向け、都市計画決定済みの2事業（「札幌駅前通地下歩行空間整備事業」と「創成川通アンダーパス連続化事業」）を含む都心まちづくりの主要事業について、新市長のもと事業の実施等の政策判断のために広く市民の意見を求めるための大規模ワークショップの企画運営を行いました。

市民の関心を高めるために事前に全12回のフォーラムを開催した他、都心でのパネル展の開催、無作為抽出の1万人に参加案内のDM送付などを行いました。また、事業実施等の政策判断につながる市民意見の把握のために、複数の選択肢をもとに討議後に参加者全員の意見を集約するシステムを構築し、ワークショップ当日に結果を参加者に明示できるようにしました。

結果については賛否が分かれていましたが、反対理由を踏まえて事業の実施内容や関連制度を整備することにつながり、該当事業の実施効果を高めることにつながりました。



「さっぽろ市民 1000 人ワークショップ」の様子

札幌市スポーツ推進計画

平成15年3月策定の「札幌市スポーツ振興計画」に代わり、札幌市における今後約10年間のスポーツ推進に関する指針となる「札幌市スポーツ推進計画」の策定・公表に向け、他都市の事例も検証しながら、スポーツ部内会議を通じて素案をまとめました。

翌年度には、プランニングセル方式の市民懇話会や市民アンケート、スポーツ団体へのヒアリング等によって収集した意見を取り入れながら、新計画策定にむけて具体的な施策の検討を行いました。



「札幌のスポーツ推進に関する市民懇話会」の様子